

第6回さいたま市道の駅整備協議会 次第

日時 令和8年1月21日（水）13時00分
場所 ときわ会館3階 第2会議室

1 開 会

2 委員紹介

3 議 事

さいたま市「道の駅」整備計画（素案）について

4 その他報告事項

5 閉 会

<配付資料>

- ・ 次第
- ・ 資料1 さいたま市道の駅整備協議会委員名簿
- ・ 資料2 席次表
- ・ 資料3 第6回さいたま市道の駅整備協議会 説明資料
- ・ 資料4 さいたま市「道の駅」整備計画（素案）

さいたま市道の駅整備協議会委員名簿

(令和7年10月10日現在)

おだ ゆたか 織田 豊	一般社団法人埼玉県トラック協会理事
くるみざわ みつこ 胡桃澤 美津子	クリエイティブプロデューサー
こじま あや 小嶋 文	国立大学法人埼玉大学准教授
さいとう ひでかず 齋藤 英一	見沼区自治会連合会顧問
すどう じゅんこ 須藤 順子	市民公募
たけだ さちこ 武田 佐智子	日本メックス株式会社 道の駅「いちかわ」駅長
ばば やすゆき 馬場 康行	さいたま市経済局商工観光部長（会長）
ほそぬま としやす 細沼 利康	さいたま農業協同組合常務理事
もりかわ よういち 森川 洋一	市民公募
やぐち あつひこ 矢口 敦彦	公益社団法人さいたま観光国際協会常務理事

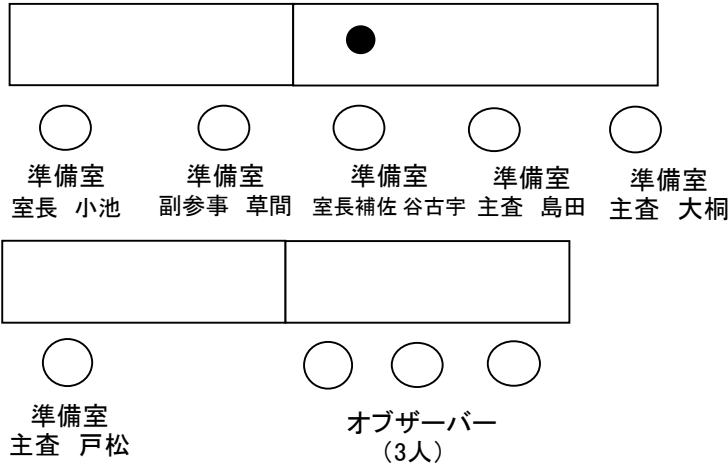
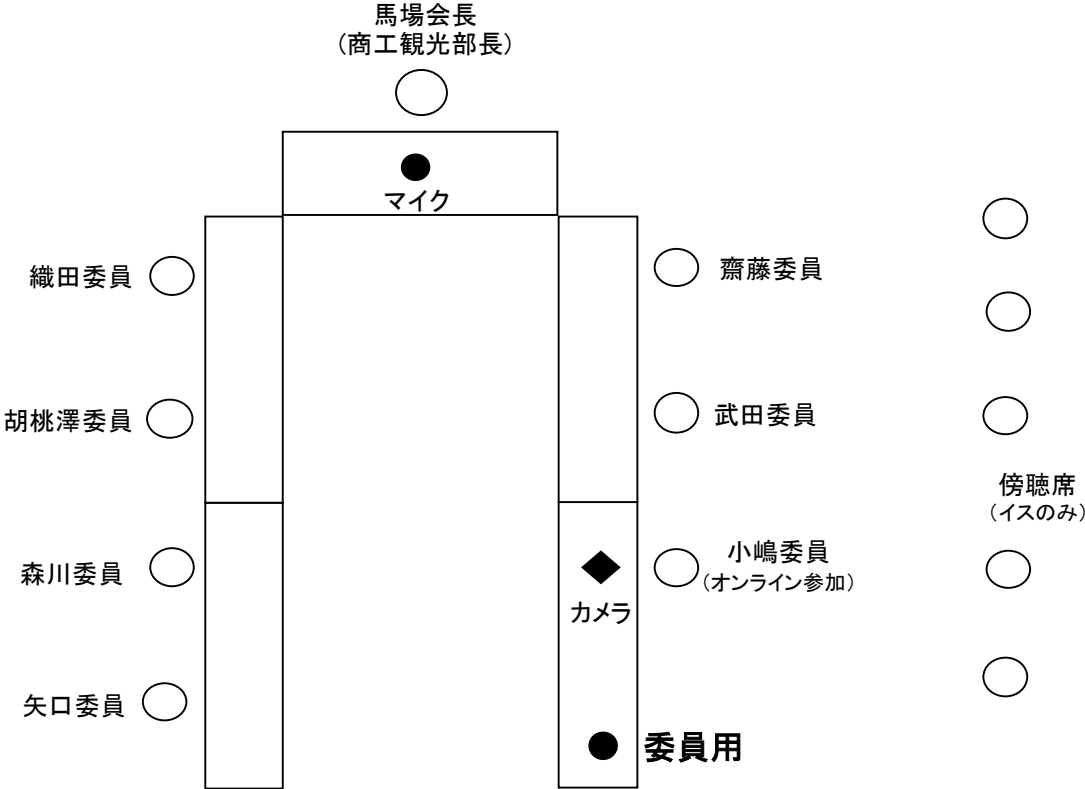
(五十音順・敬称略)

第 6 回さいたま市道の駅整備協議会

席次表

日時：令和 8 年 1 月 2 1 日（水） 1 3 : 0 0 ~

場所：ときわ会館 3 階 第 2 会議室



出入口

第6回さいたま市道の駅整備協議会 説明資料

令和8年1月21日(水)

さいたま市

経済局 商工観光部 食肉市場・道の駅施設整備準備室

これまでの協議会の開催状況

協議会スケジュール

第1回協議会

令和元年12月11日

- ・協議会の趣旨説明
- ・これまでの検討内容の説明
- ・道の駅の「コンセプト」について
- ・市民アンケートの実施・設問

第2回協議会

令和2年1月22日

拠点機能等に対する意見交換

第3回協議会

令和2年10月(書面開催)

- ・第2回協議会意見反映の結果報告について
- ・市民アンケートの結果報告について

第4回協議会

令和3年3月(書面開催)

基本計画(案)について

第5回協議会

令和4年10月4日

整備計画(案)について

第6回協議会

令和8年1月21日

整備計画(素案)について

道の駅整備事業の見直し

第5回の協議会開催時点までは、令和4年度に整備計画を策定予定であったが、社会環境の変化等により、その精査や調査等に時間を要したため、令和7年度の策定へ変更となった。

- **食肉市場移転再整備中止**

道の駅と食肉市場は一体的整備に向けて足並みを揃えて事業を進めてきたが、食肉市場の移転再整備中止により、一体的整備にどのような影響が出るかを確認する必要が生じた。

▶ 道の駅単独事業としても実施可能であることを確認

- **整備手法の変更**

国との一体型による整備を目指してきたが、早期事業化が難しい状況であった。

▶ 国及び関係機関との協議の結果、市単独型の整備が有利と判断

- **事業費増加**

整備費の精査をする中で、工事費高騰により整備費が増加することが分かり、資材価格の高騰や労務費の上昇は現在進行形で進んでおり、今後も整備費の更なる増加が懸念されるため、その精査が必要となった。

▶ 収支の黒字化が見込めること、社会的意義のある施設であることから事業継続

(参考)第5回協議会の主な意見

導入機能・施設規模に対する意見

- 利便性の点からも、コンビニエンスストアの導入は非常に良い。
- 和式トイレの設置数が多いが、洋式トイレの普及を踏まえ、設置数を精査して欲しい。

▶ トイレ設置数を見直し、再設定

レストランの規模の精査及び運営について、大手外食メーカーでなく、食肉や地元野菜食材等にこだわったメニュー提供を行って欲しい。

▶ 民間事業者ヒアリング等を実施し、面積は変更なし。メニューは御意見を反映

大型バス駐車場について、整備計画(案)の台数では不足だと思う。

▶ 大型車の駐車スペースの一部を大型バス用にするなど、引き続き検討

その他意見

- 看板等のサインについては、多言語表記に配慮した方が良い。
- キャンピングカーの宿泊駐車対策や利用の可否については検討が必要だと思う。
- 道の駅の建物は視覚的にも魅力的あるものにした方が良い。
- 土地造成に関して、周辺農地への配慮をした方が良い。

整備計画の位置付けについて

整備計画は、「道の駅」基本計画の具現化に向けて、関係機関、関係部署等と更なる協議・調整をして、次のステップとなるPFI等導入可能性調査、公募等への基礎条件をまとめたもの。



整備計画(素案)の構成について

第1章. 道の駅の整備について

- ・ 道の駅について
- ・ 整備計画の位置付け

第2章. 整備対象地

- ・ 計画地
- ・ 整備対象地の概要
- ・ 計画条件等

第3章. コンセプト及び施設機能

- ・ 道の駅のコンセプトと具現化する機能
- ・ 休憩機能と地域振興機能の役割

第4章. 建築施設整備計画

- ・ 配置計画
- ・ 建築計画
- ・ 構造計画
- ・ 設備計画
- ・ デザイン計画
- ・ 防災計画

第5章. 基盤整備計画

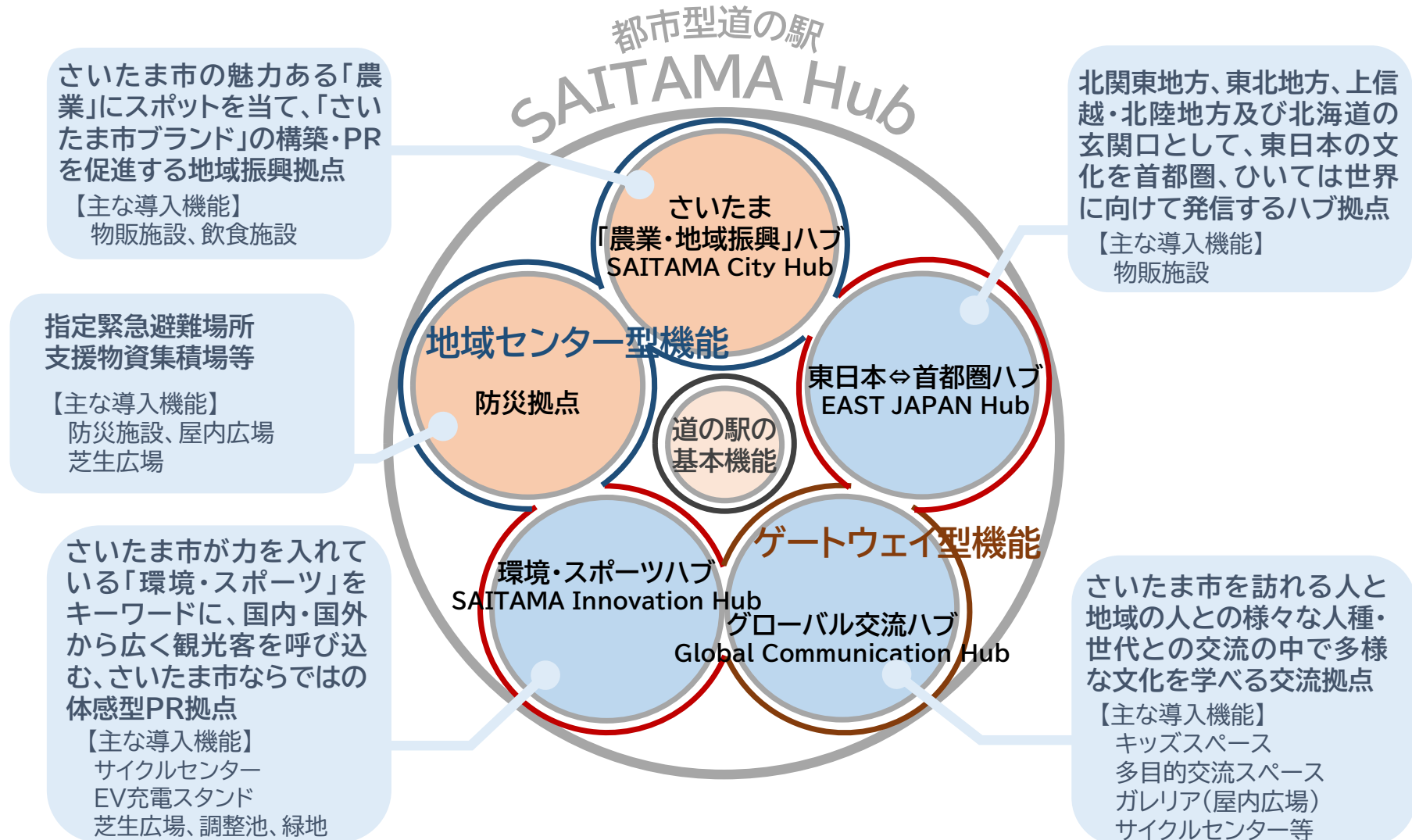
- ・ 造成計画
- ・ 周辺道路計画
- ・ 雨水排水計画
- ・ 調整池計画
- ・ 軟弱地盤対策
- ・ インフラ設備計画
- ・ 緑化計画

第6章. 整備・運営に向けて

- ・ 整備・運営の基本的な考え方
- ・ 事業手法の検討
- ・ 概算事業費
- ・ 事業スケジュール

主な変更点(コンセプト)

これまで食肉市場と道の駅の一体的整備し、連携を図ることをコンセプトの一つとしていたが、食肉市場の移転再整備中止により見直しを実施。その結果として、**食肉市場との連携以外のコンセプトは踏襲して**、さいたま市ならではの強みを活かし、地域・文化・人がつながり、交わることで、新しい価値を生み出す「SAITAMA Hub」をコンセプトとした。今後は、食肉市場に代わる新たな機能やコンテンツの検討を踏まえ、**連携による更なる道の駅の魅力向上を図る。**

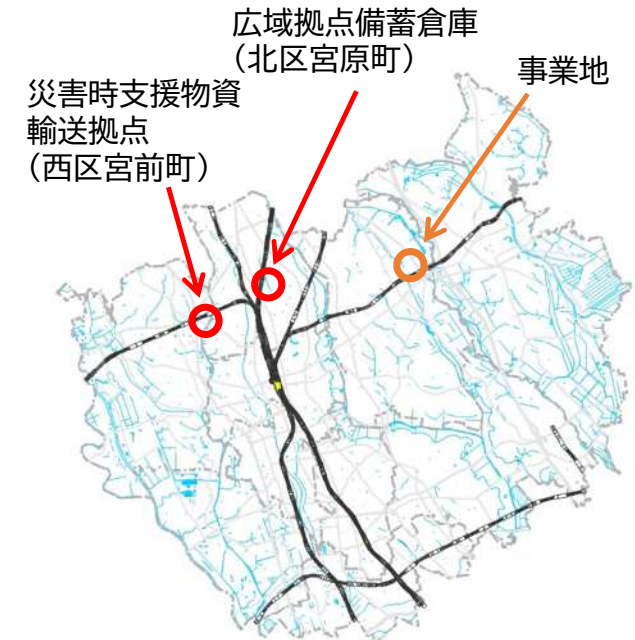


主な変更点(防災機能・事業費)

防災機能

指定緊急避難場所、支援物資集積場等の位置付けを目指す

- 切迫した災害の危険から緊急に逃れ、身の安全を確保できる場所。ただし、事業地は浸水想定区域のため、洪水時を除外。
- 災害時に届く支援物資を一時的に集め、仕分け・保管し、避難所や被災者へ効率的に届けるための拠点。東北自動車道岩槻ICに近く、また国道16号や国道122号が第一次特定緊急輸送道路になっているが、現在は事業地近辺に支援物資集積場はないことから、立地的にも支援物資の受け入れ拠点として活用。
- 上記以外の防災拠点としての活用についても検討していく。



本市の支援物資集積場

概算事業費

▶ **約86億円増**

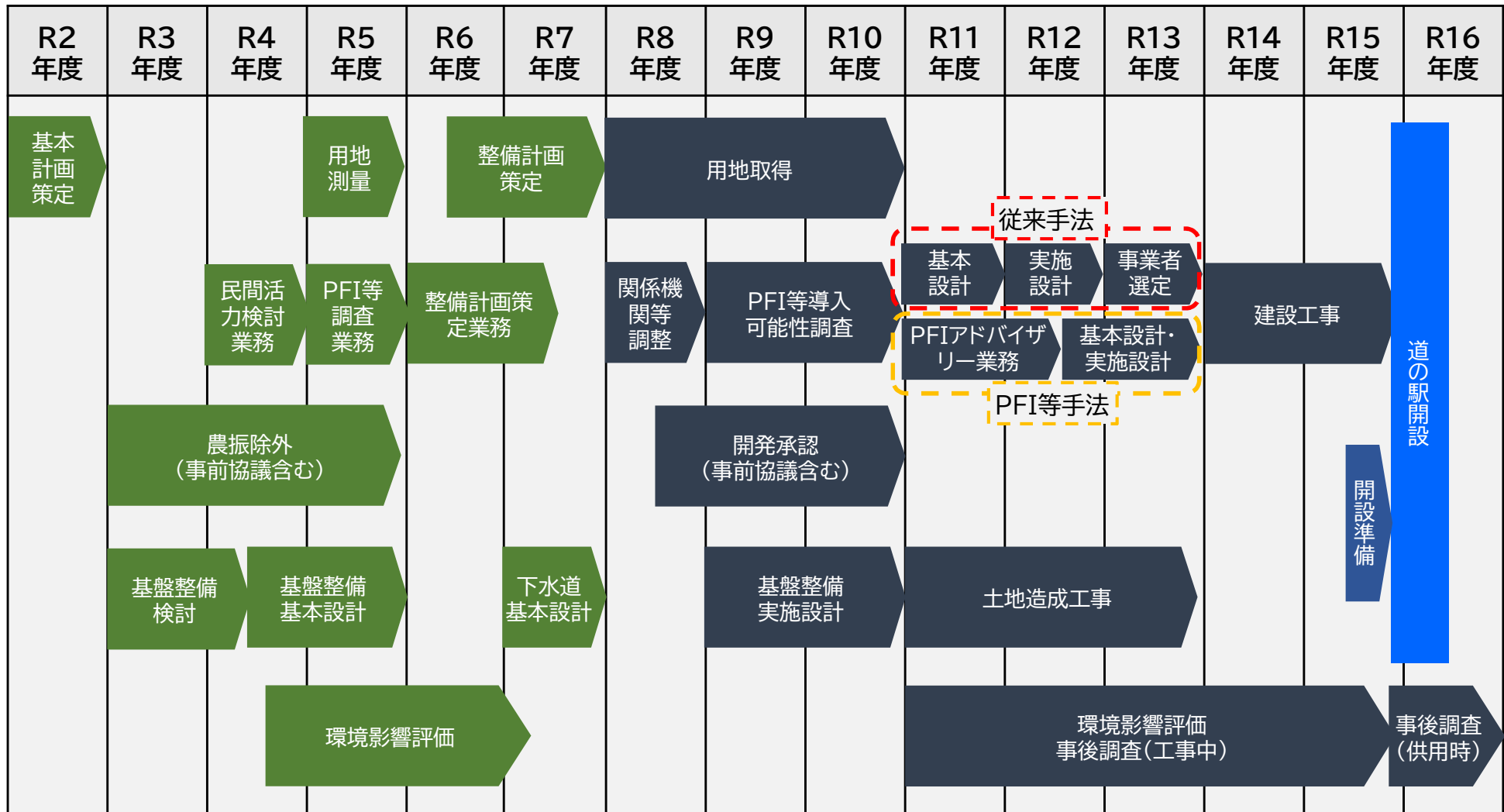
事業地の軟弱地盤対策工事の追加や物価高騰等による事業費増加のため、基本計画時の約61億円から約147億円へ増加

主な変更点(スケジュール)

スケジュール

▶ 5年後ろ倒し

供用開始は令和10年度としていたが、周辺環境の変化や関係機関等と協議・調整をして整理した結果、令和15年度とした。



施設規模

項目		整備計画R4	整備計画R7		
			合計	休憩施設	地域振興施設
屋内施設	物販施設	1,800	1,800	—	1,800
	コンビニエンスストア	165	165	—	165
	飲食施設	630	630	—	630
	キッズスペース	300	300	—	300
	多目的交流スペース	550	350	—	350
	屋内広場(ガレリア)	700	600	—	600
	サイクルセンター	50	50	—	50
	防災施設	150	150	—	150
	その他共用部分	550	550	—	550
	トイレ※	490	490	250	240
	情報発信・休憩施設	250	250	250	—
計	5,635	5,335	500	4,835	
屋外施設	駐車場	20,170	20,170	13,430	6,740
	緑地(芝生広場を含む)	10,810	10,810	3,050	7,760
	調整池	6,240	6,240	2,830	3,410
	その他	8,210	8,510	2,860	5,650
	計	45,430	45,730	22,170	23,560
合計		51,065	51,065	22,670	28,395

※ジェンダー対応トイレは廃止

導入機能

○ 情報発信・休憩施設

- ・ 道路情報や周辺観光情報、行政情報等を発信し、最新の情報を道路利用者や施設利用者に24時間提供できるよう対応します。
- ・ 24時間いつでも安心して安全に利用できるような空間とします。
- ・ 施設利用者の憩いの場として利用できるよう、開放的で安心して過ごせる空間とします。
- ・ イベント開催時にはにぎわいを創出する拠点とする等、多様な利用ニーズに対応します。

(参考写真)



導入機能

○ 物販施設

- ・ 本市の農産物・加工品や東日本地域の特産品を販売するとともに、周辺住民の日常利用や観光客のお土産、その他道の駅の魅力向上に資する多様な商品を販売します。
- ・ 本市の野菜や果実等を加工し、「さいたま市ブランド」として付加価値を向上させることで、本市の農産物・加工品の魅力を市内外に発信します。
- ・ 特産品や朝採れの野菜や果実、肉、パン、総菜等の加工品等のほか、消費額全国1位のケーキやチョコレート等のスイーツ、東日本地域の中核都市として、東日本地域の特産品等を販売するとともに、周辺住民の日常利用や観光客のお土産、その他道の駅の魅力向上に資する多様な商品を販売します。

(参考写真)



出典:さいたま市「道の駅」整備計画(素案)

導入機能

○ 飲食施設

- ・ 本市の農産物等を活用したメニューを展開し、市内外の利用者に本市の魅力を知ってもらえるような商品を開発・発掘します。
- ・ 消費額全国1位のケーキやチョコレート等のスイーツも取り入れ、ご当地グルメやB級グルメ等、地元グルメがいつでも食べられるような場所とします。
- ・ 短い時間で手早く食べられるような食事の提供から、ゆっくりと食事を楽しめるような提供まで幅広いニーズに対して柔軟に対応します。

(参考写真)



導入機能

○ キッズスペース

- ・ 幼児～小学校低学年の子ども向けに設置し、子ども達が天候や季節を問わず、安心して利用できる配置や安全性に配慮した空間とします。
- ・ 保護者が周辺で見守ることができ、安心して利用できる配置や安全性に配慮した空間とします。

(参考写真)



導入機能

○ 多目的交流スペース

- ・ フレキシビリティに配慮して、必ずしも常時同じ規模を確保するのではなく、利用したい人が、利用したい時に、必要規模のスペースを確保することができるような空間とします。
- ・ 地域のコミュニティ機能として、地域の人々が交流することのできる施設とします。
- ・ 災害時に「支援物資集積場」の役割を果たすため、支援物資の搬入スペースとして活用します。

※ 第4回協議会での意見を考慮して550㎡としていたが、**事業費増加に伴う公共部分の面積削減のため、再設定**
▶ 200㎡減

(参考写真)



導入機能

○ サイクルセンター

- ・ 本市の「自転車のまちづくり」を促進するため、サイクリストだけでなく、多世代がサイクリングを手軽に楽しめるような拠点とします。
- ・ 道の駅を起点として周遊できるような、レンタサイクルや電動マイクロモビリティ等の貸出拠点とします。

(参考写真)



導入機能

○ 屋内広場(ガレリア)

- ・ フレキシビリティに配慮して、必ずしも常時同じ規模を確保するのではなく、利用したい人が、利用したい時に、必要規模のスペースを確保することができるような空間とします。
- ・ 屋根付きの自由に使える空間で、天候に左右されることなく年間を通じて、様々なイベントが開催できるだけでなく、非常時には災害復旧・復興の拠点として利用できる空間とします。
- ・ 道の駅施設との連続性に配慮して、様々な用途で利用しやすいように工夫します。

※ 事業費増加に伴う公共部分の面積削減のため、再設定 ▶100㎡減

(参考写真)



導入機能

○ 防災施設

- ・ 指定緊急避難場所及び支援物資集積場等として、災害発生時に道路利用者及び施設利用者の安全・安心が確保できるよう十分な機能を備えるだけでなく、災害発生後に避難者支援や被災地の復旧支援の拠点としての活用にも対応します。
- ・ 非常用発電機能、飲料用水機能、トイレ機能、防災備蓄機能を備え、道の駅利用者・従業員及び前面道路の利用者の安全確保に努めます。
- ・ 非常時だけでなく、平常時も利用できるような兼用型防災用品を活用します。

(参考写真)



導入機能

○ 芝生広場・調整池・緑地等

- ・ 芝生広場は、イベント開催時にはにぎわいを創出する拠点として利用し、平時には施設利用者の憩いの場として利用できる等、多様な利用ニーズに対応します。
- ・ 調整池は、構造の工夫等により上部の有効活用を検討し、アーバンスポーツでの利用を可能とする等、平時もにぎわいを創出する拠点のひとつとしての利用に対応します。
- ・ 緑地は、市で定められた緑化面積を確保するためだけでなく、道の駅の景観を向上させ、施設利用者の憩いの場として利用できる等工夫します。

(参考写真)



今後の予定

令和7年度のスケジュール

令和8年 1月 道の駅整備協議会(本日)

1月 庁内照会

1~2月 パブリック・コメント

3月 道の駅整備計画策定